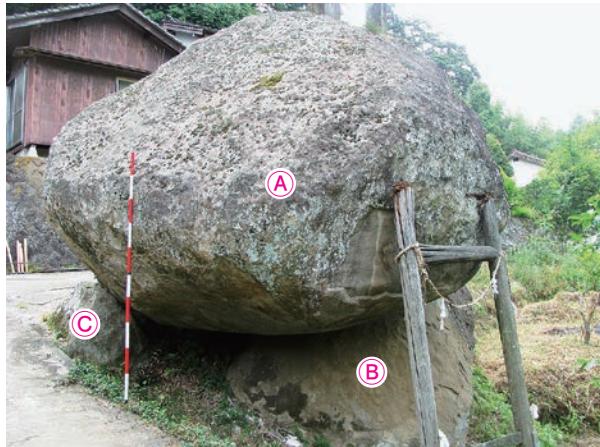
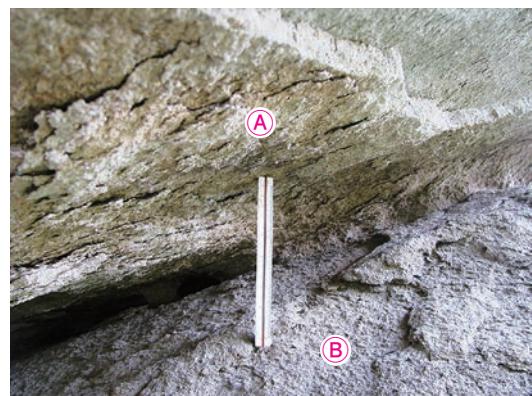




玉湯町の「弁慶岩」



弁慶岩



岩塊ⒶとⒷの境界

2013年5月24日の山陰中央新報に、弁慶に縁があるとされる「弁慶岩」の記事が掲載されていました。松江市玉湯町林の柳井地区にある弁慶岩には、三柱の神様が祀られており、地元の方々により毎年3月に神事が催されるそうです。

松市中心部から国道9号を西方（出雲市方向）に向かい、玉造温泉を経由し鳥ヶ崎を過ぎた地点①～③から南方に行くと柳井地区に至ります。地点①には目印になる物はありませんが、地点②には柳井の点滅信号があり砂岩の露頭が見えます。地点③は勝部石材店のある鏡の交差点で、柳井地区に至る地点④付近の峠には来待石の採石場があります。

地点⑤の柳井公会所に駐車させて貰い、柳井川の上流側へ100mほど歩くと、民家に至る道の脇に弁慶岩が見えます（写真左）。

弁慶岩は、民家背後の丘陵と柳井川との間の緩斜面にあります。5万分の1地質図幅「今市」によれば、柳井付近には新第三紀中新世の大森層に属する砂岩が分布しています。弁慶岩は大森層（来待層）の砂岩で、火山起源の岩片や鉱物片が混じっている凝灰質砂岩（来待石）です。

弁慶岩は大小3つの岩塊からなり、最も大きい岩塊Ⓐは目測で幅6m×高さ4m、岩塊Ⓑは4m×2m、岩塊Ⓒは1m×1mほどの大きさがあります。一見すると大小3つの転石が重なっている様に見えますが、岩塊Ⓐ



背景地図などのデータは、国土地理院の電子国土 Web システムの配信による。

とⒷは繋がっています（写真右）。このことから、弁慶岩はかつて岩塊ⒶⒷⒸが一体の露岩であったと推察されます。割れ目沿いに風化が進みコアストーンが形成され、岩塊Ⓒは風化部が流失し完全に分離したが、岩塊ⒶとⒷは辛うじて繋がっているのが現状と考えられます。残念ながら、弁慶岩は弁慶が蹴っ飛ばした岩ではなく、弁慶の時代より遙か昔から柳井にあった露岩のようです。（武島正幸*）

* 雲南省三刀屋町